

『おおいしだめとんとむがすあつたけど』

《創作むがす》

三公とガー太郎

織江 祐智作

《前編》

とんと昔あつたけど。

小林さ、三公という狐がえだけど。この三公、若いあねこに化げんなんとじよんだけど。あねこに化げで桜畑さま来て、酔っ払って通るおやずさ声かけんなだど。

「おつつあ、おつつあ。お茶のんでんがねが。」

酔ったおやず、こっぽでない(訳が分からない)なもいれば、すこすほであつて(少し分かってる)、こだんどさ、家なのあつてけべがど思ふのもいっげんと、あねこに声かけられど、十人中十人までいい気分になつて、

「んだが、一服が。」

て、家さひつぱらつて、お茶のんだり、湯さ入ったりしているうず、ふと酔いもさめで気がついてみると、着たものから財布がら、時にはおみやげ買ってきたのまで皆なくなつていっているど。

桜畑の下を流れる最上川は爆巻というて、ほれこそ深くて、うず巻いで流れてえんなだけど。柳や杉の木が岸にはいっばい生えていで、昼間でも暗くてさぶすいどだけど。そこさ、ガー

太郎という河童が住んでいだど。ガー太郎はやるこに化げで、魚売りすんなだど。最上川の水はきれいで、それこそ活ぎのいい大きい魚がいっぱい泳いでいるのをつかまえて、てんびんさいっぱいかげいで、安く売つてあるぐのだけど。晩方になつど、「最上川の魚えらねが。」

てくるもんだがら、大石田の魚屋よりずっと安いがみんな買うのだど。米だのあずきだのと魚を交換してけんだど。

(つづく)

○出典『大石田のとんとむがす』

(大石田とんとむがすの会編集・発行、二〇一九年)

町内で昔語り活動を行っている大石田とんとむがすの会によるお話です。

『大石田のとんとむがす』は町立図書館や町内の各小中学校図書館などに所蔵していますので、ぜひお手にと取つてご覧ください。



町の人口	令和8年4月1日現在	令和7年度中の異動	R7.4.1~R8.3.31
世帯数	2,185戸 (+5)	-	-22戸
総人口	5,695人 (-31)	-	-193人
男	2,842人 (-20)	-	-94人
女	2,853人 (-11)	-	-99人
(3月中の異動)		令和7年度中の異動	
出生	1人	転入	14人
死亡	13人	転出	33人
			11人
			95人
			155人
			144人

※この人数は外国人も含めたものです。

防災放送の内容を 電話で確認できます

防災放送が聞き取りにくい、放送内容を確認したい等のご意見をいただき、町では防災放送確認ダイヤルサービスを開始しました。

このダイヤルは定時(夕方6時のメロディ等)放送を含め、直近の放送から8時間以内の内容を順次聞くことができます。

確認ダイヤル: 0237-48-8444

■総務課総務グループ Tel.35-2111 (内線218)

大石田町公式アカウント開設

LINEはじめました

防災情報や各種行政情報を受け取ることができます。

友だち登録をお願いします!

登録方法

右の二次元コードを読み取って友だちに追加してください。



大石田町公式LINE